

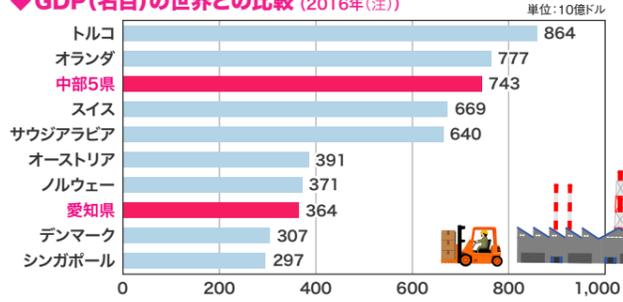
# 中京大都市圏のポテンシャル



## 一国に相当する活力

中京大都市圏をエリアに含む中部5県(愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、長野県)は、圏域の人口・面積・経済規模(GDP)がオランダに匹敵し、ヨーロッパの一国に相当する活力を有しています。  
圏域の産業を牽引しているのは、圧倒的な産業集積を誇る製造業で、製造品出荷額等は我が国の4分の1を占めています。

### ◆GDP(名目)の世界との比較(2016年(注))

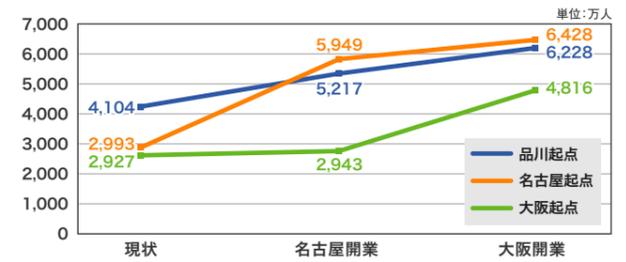


(注)愛知県と中部5県は年度計、東京外国為替市場におけるインターバンク直物中心相場の中平均値の12か月単純平均を用いて換算。他国は隔年計。(出典)内閣府「県民経済計算」(2016年度)、総務省統計局「世界の統計2019」

## リニア大交流圏の中心

リニア中央新幹線の開業により、中京大都市圏の玄関口である名古屋駅を起点とした2時間圏人口(鉄道+道路)は、品川駅や大阪駅起点を上回り、国内最大となります。  
中京大都市圏は、リニア時代における大交流圏の中心としての役割を担うことが期待されます。

### ◆リニア中央新幹線開業後の2時間圏人口(注)の比較(2010年人口)



(注)三菱UFJリサーチ&コンサルティング作成資料をもとにグラフ化。鉄道または道路で到達可能な約1km四方の人口を集計。リニア・鉄道から自動車への乗換えは、乗換時間を10分と設定し、リニア駅と東海道・山陽新幹線の「のぞみ」ひかりの停車駅のみを考慮。

## 日本の真ん中に位置する中部国際空港

国際拠点空港である中部国際空港は、中京大都市圏と国外42都市(週482便)、国内19都市(週97便)を結んでいます(2020年1月1日現在)。国際線は、アジア方面へのネットワークが拡充しています。

### ◆乗降客数の推移

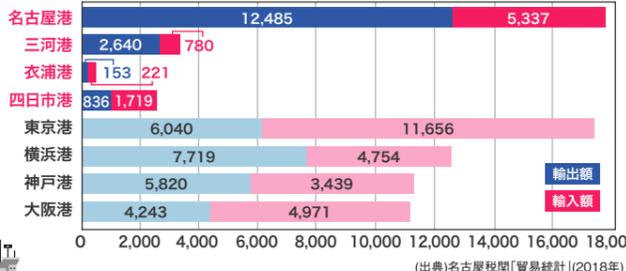


(出典)国土交通省「空港管理状況調査」

## 日本の黒字を稼ぐ国際貿易港

中京大都市圏の主要港(名古屋港、三河港、衣浦港、四日市港)の輸出額は、我が国全体の約3割を占め、貿易収支は約8.1兆円の黒字となっています。とりわけ、名古屋港は、輸出額・取扱貨物量ともに日本一の国際貿易港です。

### ◆中京大都市圏の主要港と国内主要港の貿易額(2018年)

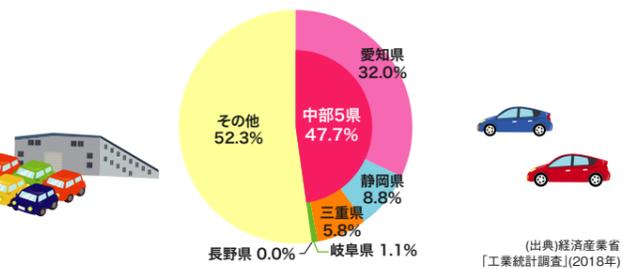


(出典)名古屋税関「貿易統計」(2018年)

## 世界第一級の自動車産業

中京大都市圏には、完成車メーカーや大手部品メーカーなど、自動車関連産業が集積しています。中京大都市圏をエリアに含む中部5県の製造品出荷額等の全国におけるシェアは、完成車で約5割、部品生産も含めれば約6割となっています。

### ◆自動車製造業(二輪自動車を含む)の製造品出荷額等の全国シェア(2017年)



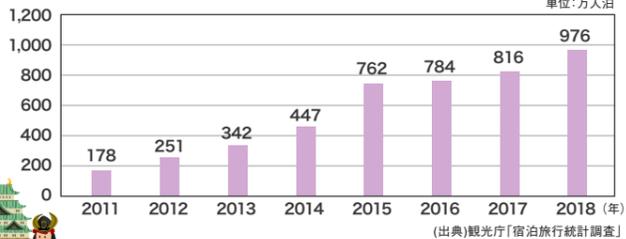
(出典)経済産業省「工業統計調査」(2018年)

## 中部圏に広がる多様な魅力

愛知県を始めとし、北陸などを含む中部地域は、自然・歴史・文化、産業、グルメ、スポーツなど、日本の魅力が凝縮されています。

中部9県(愛知県、岐阜県、三重県、静岡県、長野県、富山県、石川県、福井県、滋賀県)の外国人延べ宿泊者数は、2011年から2018年にかけて約5.5倍に増加しています。

### ◆外国人延べ宿泊者数の推移



(出典)観光庁「宿泊旅行統計調査」

# 中京大都市圏づくり



リニア開業により、首都圏から中京圏に及ぶ人口5千万人規模の大交流圏が形成されます。その西側の拠点となる愛知県では、名古屋を中心としたおおむね80~100km圏を「中京大都市圏」と位置付け、世界と直結する一大産業拠点としての役割を担っていくとともに、この地域の多様な魅力を発信しながら、国内外から人・モノ・カネ・情報を呼び込み、世界の中で存在感を発揮できる大都市圏づくりを進めています。



名古屋を中心とした80~100km圏の広がり



# 交通基盤・都市基盤の整備

国内外から人・モノ・カネ・情報を呼び込み、活発な交流を促進するため、圏域内の総合的な交通ネットワークを充実するとともに、世界との直結性を高め、アジアの大都市圏との競争に負けないインフラ環境の整備を進めています。また、名古屋都心部への高次都市機能の集積を図るとともに、圏域内の主要都市において、地域の特色を生かした機能集積を図っています。

## リニア中央新幹線の整備促進

東京都ー名古屋市間を時速500km、約40分で結ぶリニア中央新幹線は、2027年度の開業に向けて、名古屋駅で着工するなど、愛知県内においても本格的な工事が始まっています。愛知県では、着実に事業が進むよう、国・関係機関への働きかけや事業推進に必要な調整を行っています。



リニア中央新幹線(イメージ)

©Central Japan Railway Company. All rights reserved.

## 主要幹線道路網の整備

名古屋港への重要なアクセス道路である2020年度に開通予定の名古屋環状2号線の整備や、三河港と輸送機器等の生産拠点を結ぶ名豊道路の整備等を加速するよう、国への働きかけを行っています。

また、名古屋高速道路を経由して名古屋都心部と中部国際空港を最短で結ぶ西知多道路の早期全線開通に向けて、国と連携して事業を進めています。



名古屋環状2号線(飛鳥大橋)

愛知県道事務所提供

## 中部国際空港の二本目滑走路の早期実現

中部国際空港では、二本目滑走路の早期実現に向けて、地域が一丸となって、国への働きかけを行うとともに、エアポートセールスやインバウンド旅客の誘致等を実施するなど、航空ネットワークの拡充と航空需要の拡大を図っています。



中部国際空港

中部国際空港株式会社提供

## 港湾の機能強化

名古屋港、衣浦港、三河港は、モノづくりが盛んな中部地域と世界を結ぶ海のゲートウェイであり、今後も日本の経済・産業をリードする基盤として、コンテナ、完成自動車、パルク貨物などを円滑に取り扱えるよう、機能強化を図っています。



名古屋港

名古屋港管理組合提供

## 名古屋駅のスーパーターミナル化と名古屋駅周辺まちづくり



名古屋駅周辺

名古屋市役所提供

リニア中央新幹線の開業に向け、名古屋駅周辺では、民間事業者による再開発が進んでいます。愛知県では、名古屋市や民間事業者等と連携し、中京大都市圏の玄関口となる名古屋駅のスーパーターミナル化や、名古屋駅周辺のまちづくりを始め、名古屋都心部の高次都市機能の集積を図る取組を進めています。

# リニアを生かし、世界の中で存在感を発揮する中京大都市圏

愛知県は、中長期的な観点から愛知の進むべき方向性を明らかにした「あいちビジョン2020」に沿い、交通基盤・都市基盤の整備を始め、グローバル展開、産業革新・創造、魅力創造・発信などの取組を進めています。また、経済面、社会面、環境面の調和のとれた、活力と持続力を兼ね備えた大都市圏を目指すことで、SDGs(持続可能な開発目標)達成に貢献していきます。

# グローバル展開



この地域の強みである圧倒的な産業集積を生かしながら、世界に開かれた大都市圏として発展していくため、海外から企業や人材を呼び込み、活発な交流を促進していくとともに、愛知に住む外国人が安心して暮らせるよう、魅力ある環境づくりを進めています。



## 海外とのパートナーシップの構築

愛知県では、グローバルな経済・社会の動きに的確に対応していくため、新たなパートナーシップの構築に精力的に取り組んでいます。2019年度も、中国・広東省との友好提携締結を始め、様々な国・地域と連携・交流を進めました。

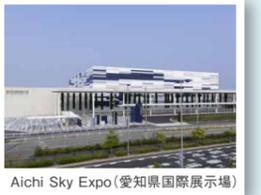


中国・広東省との友好提携締結式



## Aichi Sky Expo(愛知県国際展示場)の開業

空港島に日本初の国際空港直結型となる延床面積約9万㎡の「Aichi Sky Expo(愛知県国際展示場)」を開業しました。この展示場で、2020年にロボットの国際的な祭典「ワールドロボットサミット」が開催されます。また、空港の新たな複合商業施設「FLIGHT OF DREAMS」やLCC向け第2ターミナルが開業し、新規ホテルの立地なども相次いでいます。空港島やその周辺地域が、新たな交流、賑わい、集客の拠点となるよう取り組んでいきます。



Aichi Sky Expo(愛知県国際展示場)

# 産業革新・創造

中京大都市圏が、次々とイノベーションを起こす、世界一の産業の革新・創造拠点となることを目指して、次世代自動車や航空宇宙、ロボットの分野を始め、健康長寿、環境・新エネルギー、ICTやAIなどのデジタル分野まで、幅広く産業集積を進めていくとともに、スタートアップ支援や産業人材の育成に取り組んでいます。

## 自動車産業の高度化と航空宇宙産業の振興

自動車産業の新たな研究開発拠点となる豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業を推進するとともに、電気自動車(EV)、プラグインハイブリッド自動車(PHV)及び燃料電池自動車(FCV)等のインフラ整備促進、次世代通信システムである5Gを活用した自動運転の実証実験などにより、次世代自動車の普及を図っています。



自動運転の実証実験

また、中部地域は日本の航空機・部品の5割を生産する日本最大、アジアNo.1の航空宇宙産業の集積地です。愛知県では、国際戦略総合特区制度の活用による設備投資の支援など、航空宇宙産業のさらなる強化に向けた取組を進めています。

## スタートアップの支援

スタートアップを次々と生み出し、優れた人材・技術等を呼び込む世界的なイノベーション都市となるために、海外の大学や支援機関等と連携するほか、新たなスタートアップ中核支援拠点「ステーションAI」の整備を進めています。



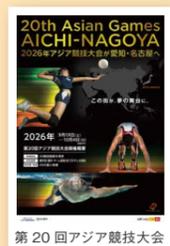
スタートアップの支援(イメージ)

# 魅力創造・発信

国内外から人を惹きつける大都市圏の実現に向け、文化芸術の国際的なイベントの開催、国際的・全国的なスポーツ大会の招致・開催、武将観光・産業観光の推進、伝統文化・食文化等のPR、愛知の「住みやすさ」のPRなどに取り組んでいます。

## 国際的・全国的なスポーツ大会の招致・開催

2026年に「第20回アジア競技大会(2026/愛知・名古屋)」を開催します。アスリートファーストの視点を踏まえながら、簡素で質素な、そして機能的で合理的な大会とし、国際スポーツ大会の「愛知・名古屋モデル」を作ることを目指すなど、名古屋市とともに開催準備に全力で取り組んでいます。また、国際的なスポーツ大会が開催できる新たな体育館の整備を進めています。



第20回アジア競技大会

## ジブリパーク構想

愛知万博の理念を次世代に継承するため、愛・地球博記念公園に、スタジオジブリ作品の世界観を表現した「ジブリパーク」を公園施設として整備する構想です。2022年秋の開業に向けて、国内外からの多くの人たちに愛されるオンリーワンの公園を目指し、取り組んでいます。



青春の丘エリア(イメージ)

©Studio Ghibli

